

1 戦略的意思決定と設備投資意思決定

1 企業存続に大きな影響を与える戦略的意思決定

(1) 戦略的意思決定の意義

今日の激しく変動する経済環境の中で、企業は競争優位性の確保を目指し、さまざまな戦略的なプロジェクトを立ち上げ実行しています。

■ 競争優位性確保のための戦略的プロジェクト

- 新製品の開発
 - 新規事業への進出
 - 海外市場への進出
 - 海外への工場建設
 - 最新の生産設備の導入
 - M & Aの実行
 - 既存事業のリストラ
- など

このような戦略的なプロジェクトは、中長期的な企業活動の方針決定に深く関わっており、その成否は企業の生き残りにとって非常に重要な影響を与えるものです。

(2) 設備投資意思決定と管理会計の役割

戦略的意思決定の中でも特に管理会計情報が大きな役割を果すのは、設備投資に関する意思決定です。

■ 設備投資意思決定とは

生産・販売設備の新設・更新・取替・廃棄などに関する意思決定を行うものであり、資本予算として検討される

この設備投資意思決定に対して、管理会計は財務的な情報を提供することで意思決定をサポートします。

設備投資の意思決定は、企業の将来の成長に欠かせないものですが、一度支出がなされると企業の経営構造を長期に渡り規定することになります。したがって、設備投資の成否は企業の運命を大きく左右するため、経営戦略と密接なつながりを持って展開されることになります。

(3)設備投資意思決定の特徴

設備投資意思決定の特徴として、次の4点があげられます。

■設備投資意思決定の4つの特徴

- ①設備投資意思決定における経済性計算は、個々の投資プロジェクト自体を対象に行う
- ②経済的効果の測定にはキャッシュフローを用いる
- ③経済性計算における計算対象期間は、特定の会計期間ではなく、個々の投資プロジェクトの予想貢献年数（経済命数）である
- ④設備投資プロジェクトは長期間に渡るため、その評価に際して貨幣の時間価値を考慮する

上記のような特徴から、設備投資意思決定の経済性計算においては、キャッシュフロー、経済命数、貨幣の時間価値、資本コストなどの概念を理解することが重要になります。